

たくさんの感動をありがとう

元大関琴奨菊（秀ノ山親方）が市役所を訪問



11月24日、現役を引退した元大関・琴奨菊（秀ノ山親方）が、市役所を訪ねました。現役時代は幕内で歴代6位となる718勝をあげるなど、数々の偉業を

成し遂げられました。秀ノ山親方は「みなさんの応援のおかげで奮い立つことができました。これから恩返しのため後継の育成に励みます。本当にありがとうございました」と感謝の言葉を述べられました。



市民の皆さんからのメッセージをお渡ししました

子育ての原点を学ぶ

親子教室閉講式



▲「はらぺこあおむし」の読み聞かせ

11月24日、まいピア高田で親子教室の閉講式が行われました。この教室は7月に開講し、全12回の講座を実施。閉講式には9組の親子が参加しました。親子教室専任講師の石井美枝子さんの講話「自立心の基礎づくりを学ぶ子育てのキーワード」や、絵本の読み聞かせが行われたあと、参加者へ修了証と、8日以上出席の人には精勤賞が贈られました。

地元の高校の魅力を知りました

瀬高小学校 瀬高大好き大作戦



▲山門高校の高田教頭先生によるオリエンテーション

11月17日、瀬高小学校の「瀬高大好き大作戦」の一環として、同校の児童約60人が山門高校を訪れました。この活動は、瀬高小学校の児童が地元の良いところを知りたいという目的で、「地元の子は地元で育てる」というテーマとして行われます。児童らは、グループごとに教室や図書館などを巡る校内見学や、体育の授業に参加する授業体験を通して、山門高校の魅力を知りました。

消防団活動への貢献を認定

消防団協力事業所



従業員が消防団に入団しているなど、消防団に積極的に協力している事業所を認定する「消防団協力事業所」に、マル工醤油株式会社、株式会社田中基礎、社会医療法人弘恵会、沖産業の4団体が認定され、12月7日、市役所で協力事業所表示証の交付式が行われました。松嶋市長は「消防活動と、安心・安全のまちづくりに協力してもらい、本当に心強いです」と話しました。

すべての被害者の帰国を目指して

拉致問題を考えるみんなの集い



横田拓也さん

12月5日、まいピア高田で「拉致問題を考えるみんなの集い」が行われました。被害者家族からのビデオメッセージ上映、支援団体「北朝鮮に拉致された日本人を救出する福岡の会」活動報告のほか、北朝鮮による拉致被害者家族連絡会事務局長で、横田めぐみさんの弟である横田拓也さんによる講演などが行われました。訪れた人たちは熱心に聴き入り、署名活動などに協力する姿も見られました。



ビデオメッセージ上映

火災予防への意識を高める

第13回防災協会杯グラウンドゴルフ大会



秋季火災予防運動期間中の11月13日、防災意識向上と事故防止啓発を目的に、山川農村広場とふれあい公園で市防災協会杯グラウンドゴルフ大会が行われ、約150人が参加。熱戦が繰り広げられました。競技後の防災講習会では、水消火器での初期消火訓練を行いました。また、設置義務化から11年が経過した住宅用火災警報器が交換時期に入ったことから、あらためてその必要性を学びました。



初期消火訓練

10年前の自分からメッセージ

商工会青年部がタイムカプセルを開封



開封されたタイムカプセル

市商工会青年部が2010年度に、当時の市内小学校4年生などに10年後の自分への手紙を書いてもらいタイムカプセルとして埋め、保存していたものを、11月14日に開封しました。自分への手紙は、それぞれ本人へ郵送されています。タイムカプセルには時計を同封し、時計が止まった時間を当てるクイズを行っていました。当時小4だった須崎裕也さん（高田町）が「12時21分」の時刻を当てており、記念品が贈られました。



開封作業

自主的に取り組みました

赤い羽根キャッチフレーズ特別賞受賞



福岡県共同募金会の赤い羽根キャッチフレーズ募集で、特に積極的な応募があったとして桜舞館小学校が特別賞を受賞しました。12月2日に賞状の伝達式が行われ、同会や市支会の山田一昭会長が運営委員会の山下葵生さんと中尾彩華さんに賞状などを渡しました。また、山下さんと中尾さんから、運営委員会の呼びかけで集まった募金が山田会長に渡されました。